

令和3年6月28日（月）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
議題（1）についての意見

福井市至民中学校長 小林 真由美

上所小学校の大井校長先生が言われる通り「ICTと書くことや話し合いのバランス」はとても大事だと思います。安易にICTの活用ばかりにとられると、本当に大事な育てたい力を見失うことにもなりかねません。

先日、ある若い先生が「朝顔の観察なんて、これまで絵で描いていたときは、時間もかかって、出来上がりにも差があったけれど、タブレットで写真に写すと、どの子の作品もきれいだし、あっという間にできました」と言うのを聞いて、少し怖くなりました。本来、朝顔の観察は、子供たちが四苦八苦しなから朝顔を眺めて「どの角度から？どんなことに気を付けて？どの色を使って？」描こうかと、いろいろ思案する過程こそが学びではないでしょうか。仕上がりがたとえへたくそな絵であっても、その子が描きたかった朝顔には大きな価値があるし、その過程があるからこそ、学びの深まりがあるのではないのでしょうか。タブレットで写真を撮ることが悪いとは思いませんが、簡単に仕上がることを手放しに喜んで、それですませてしまう先生の考え方が怖いと思います。

「図画工作科の時間に互いの作品のコメントをタブレットに入力し、コメントをクラウドに送って共有しようとしたら、コメントの入力作業に手間取って、肝心の鑑賞内容はとても薄いものになってしまった」という先生もいました。先日の会議でも松下委員がご質問されていましたが、子供たちのICTの技能の能力差も十分に考えられると思います。それはそれで、こうした過程を経て伸ばしていくべきですが、そのせいで本来の本時の授業のねらいが失われてしまうのは、違う気がします。

しかし一方で、体育の時間に、跳び箱の跳び方を友達に動画で録画してもらい、再生したものを振り返って、互いにアドバイスしながら跳び方を研究している姿もありました。これまで、自分がどんなふうに跳んでいるのかを見ることなど、絶対に不可能でしたが、何度も再生し、生き生きと話し合っている姿に、改めてICTの威力を感じました。

上手にバランスをとって、ICTの良さを十分に活用できる先生もいます。しかし、子供たちがゲーム感覚でタブレットにのめりこむ姿を、学びにのめりこんでいると勘違いして、手放しに喜んで先生もいます。GIGAスクール構想が新型コロナのおかげで一気に進んだ今こそ、私たちは本当に育てるべき力を見失ってはいけないと強い危機を感じています。

行政もまた、この危険性をあまり考えないで、先生方の技術だけを身につけさせようと、安易な研修に走ってはいないでしょうか。この「GIGAスクール構想」と「主体的・対話的で深い学び」の両方が提示されたことは、意義深いと思います。特にこれからの教育を担う若い先生方に、ICTを使うことによって「できなくなってしまうこと」にも目を向けるよう、研修の在り方を考えねばなりません。私は個人的にはICTはこれまでやっていたことの代わりに使うのではなく、体育の動画のように、これまでできなかったことの可能性を広げていくべきだと考えています。本来、図画工作科の作品の鑑賞は、入力するのではなく、お互いに目と目を合わせて語り合うべきではないでしょうか。

こういう正しい使い方を身につけるためには、活用による弊害にも目を向けて、選択する力を研修していくことが必要だと思います。